広報にいつ
発行所　新津市役所
発行人　新津市役所総務企画課　電話代表550番
印刷所　坂爪印刷工業
毎月一回発行

人口動態（昭和39年7月末日現在）

人口	56,505
世帯数	11,511

（7月中）

出生	75	死亡	24
婚姻	22	離婚	2
転入	156	転出	162

九月税の相談日　五日　十五日　二十五日　（税務署）

大学建設地として最適な朝日丘陵地帯

実現したい学園都市

誘致運動もうひと押し

九月下旬には結論

負担も覚悟

新潟大学の統合移転の問題について新津市も候補地を挙げて誘致運動を続けていることは先号でもお知らせしたとおりですが、この移転問題の結論は九月下旬に発表されるということであり、現在では、まだ選考中だということです。

大学が当市に設置された場合の市の利益、住民の利益を抜にして誘致運動を進めることは不可能であると思いますが、こうしたことより更に進んで教育百年の大計のために当市が最も適しているためという自覚を一層強めて、この運動をより強力に推進することが大切であります。このためには相当の負担も覚悟しなければならないことは当然であると思いますので、ここに決意を新たにして最後の猛運動を展開したいと思います。市民のみなさんの理解ある協力をお願いします。

署名簿で陳情

期成同盟会では、その後新津市の住民が如何にこの大学設置に熱意をもっているかを訴えるため署名運動を展開しましたが、結果は二万人余の数にのぼり、早速代表が大学当局にこの署名簿を添えてみなさんの熱意を申し上げて来ました。

また婦人会でも約五千人の署名簿をとりまとめて大学当局に代表が陳情したところ大変好意的なお話しがあったということです。

隣接市町村も強力な応援

隣接の加茂市長、白根市長、小須戸町長、京ケ瀬村長、田上村長も新津市が大学建設地として最適の環境であると、この度連名で五百名近くの大学の先生方に要請書を送るなど強力な応援態勢をしき、熱意を示されています。

環境は最適

当市が候補地として挙げている朝日地内の丘陵地帯が如何に大学建設地として適しているかを、期成同盟会が発行した小冊子「文教都市新津」から拾ってみますと

◎文字通り山紫水明の地で最高学府に学ぶ青年が真理を探究する地として最適の環境であること。

◎新潟市から距離が近いので通勤通学に便がよく、新潟市内における学生アルバイトなどにも支障がないこと。

◎交通の要衝にあるため新潟市以外からの通勤通学にも便利であること。

◎豪雪で知られる新潟県の中でも積雪は最も少ない方で道路交通の確保が容易であること。

◎地盤がしっかりしているので精密機械などを設備するに心配がないことなどのほか、水道、ガス、住宅地の問題などでも他に負けないことなどが挙げられています。

戦没者叙位叙勲

＝12柱に伝達＝

第二次大戦に戦没された英霊の叙位・叙勲は永い間事務が中断されていましたが、この度十七年ぶりで再開され、その第一回分として去る十一日市役所で伝達式が行なわれ、次の方々に勲章・勲記が授与されました。

勲章	階級	戦没者	遺族	住所
旭七	海軍二等兵曹	五十嵐三治	五十嵐カツ	蒲ケ沢
〃八	陸軍兵長	加藤定太郎	加藤純一郎	中村
〃八	陸軍上等兵	仲川吉衛	仲川政治	川口
瑞八	陸軍軍属	土橋三郎	土橋カク	新町
〃八	陸軍上等兵	伊藤太一	伊藤ギロ	小口
旭八	陸軍伍長	本間元治	本間久助	四之町
〃八	海軍水兵長	西山正平	西山平三郎	新町
〃八	陸軍上等兵	本望弘衛	本望清次郎	小戸上組
〃七	海軍二等兵曹	伊藤正雄	伊藤春次	中野
〃八	海軍一等水兵	藤田新一	藤田フジ	六郷
〃八	海軍上等水兵	井田徳英	井田辰三郎	小口
〃八	海軍二等水兵	瀬戸与一	瀬戸タツ	小口

財政の現状と再建計画

赤字解消3年で

サービス低下をさけながら努力

市財政の現状を二面と三面で掲載しましたが、これについての総体的な事項として赤字の原因とこれに対する再建計画の概要を述べてみます。

◎三十八年度一般会計は九千四百八十万円余の赤字でこれは三十九年度の財源を繰上げて使用しています。

何故赤字になったか

◎普通の場合市町村の収入は少しづつふえているといってもたいした違いはないもので、このワクの中で仕事をしていれば赤字になることはないのですが、

◎個人でも同じように、ある年には家や納屋を建てたり、田畑や宅地を買ったり、子供が進学したり病人が出たりで一時的に金が必要になって借金をするというようなこともあるように市町村でも同じようなことがあるものです。

◎新津市は二十九年度に大きな赤字が出たため、三十年から三十四年まで再建団体として国の指定を受け、その間やりたい事業も国の制約を受けて大きな額の補助金、起債も認めてくれないためできずにきました。

三十四年度に赤字もなくなったので、その間抑えられてきた学校の増改築、施設改善などの要請が一挙に出され一小、二小、満日小、結小、市之瀬小、阿賀小、小合西小新関小、一中、二中、三中、五中、金津中、小合中、新関中の校舎増改築阿賀小、西小、新関小、結小、東小の給食施設や一小、二中、新関中のグランド整備などで一億四千九百万円近くの事業を行なう結果になりました。

このほか二小の火災復旧で二千八十万円、第二室戸台風で二中など二千二百七十九万円もかかりました。

さらに合併によって極度にせまくなった庁舎の増改築、し尿処理場の建設、県立工業高校の誘致野球場の建設、保育所の増設など早くから市を挙げて運動していたものがようやく機が熟し国や県から高額の補助や起債が認められることになり、この好機を逃すといつ実現できるかわからないので、あえてこれらの大事業を一挙にやることにしたものです。

そのほか母子健康センター、畜産センター、市営住宅建設や、乳児保育の開設、私立保育所の補助の増額、図書館、公民館自動車の購入などサービス向上の施策を積極的にやりました。

行政水準は向上

◎赤字というのは、単に現金上の赤字で、反面建物などの有形財産はもちろん、教育水準の向上、衛生環境の改善その他都市としての行政水準の進歩向上はめざましいものがあり、これらは市民として無形の財産となっているものと信じます。

◎裏面の表でも明らかなように、最近二～三年間の建設事業はめざましくこれに対する国、県の補助、起債も多額になっていることはわかっていただけると思います。

再建の計画

◎三十九年度はこの赤字を三千六百万円解消するため議会の承認も得ておりますし、残り六千万円も四十年、四十一年には解消できる予定です。

この赤字解消策は思いきってやらなければできないものですが、一方市民サービスの低下はできるだけさけなければならないと思っています。ご協力を願う次第です。

しかし、このように計画中ではありますが、新潟地震、水害の際には総額五千六百九十七万円余の復旧費を専決処分で予算化し教育、土木、農林その他の復旧につとめる等、他市町村にさきがけて意を用いています。

特別会計は

◎国保会計の赤字は、世帯主に対する七割給付の実施、医療費の改訂で給付の増高などあったのに対し、保険料の増徴を抑えてきたのが主な原因です。

これは、助産費、葬祭費を含めた給付費が五千八百八十五万円であるのに保険料は三千二百五万円で一般会計から二百十五万円も繰出しをしていることでもわかっていただけると思います。

しかも国からの補助金は三千五百十五万円が三十九年度に持ち越し交付されていますので実質的には赤字ともいえません。

◎と場会計では建設費の起債償還が短いため毎年の元利が多額になるので、あと数年はこの状態が予想されています。これは金繰りその他の面にも影響を及ぼすのでこの際県営にして貰った方が得策と思われるので県と話しあいを進めています。

県営になっても生産農家のための事業には何らの変更もなく、現状の赤字は一挙に解決することはもちろん、このほか県から相当額の交付を受けることになるので、と場会計の赤字は特別の一時的現象ということができます。

◎公益質屋会計は、低所得の市民に非常に安い利子で金融の利便をはかっている福祉事業の会計でこの事業で利益を得ることは好ましいものではありません。従ってこの赤字分については今後一般会計から補塡して処理する方針です。

当局を信頼　協力を

以上各会計の現状と今後の再建の計画について述べましたが、着々と実績を挙げておりますので当局を信頼し、市政にご協力下さるようお願いいたします。

公民館として再出発

七月で出張所廃止

金津、小合、新関出張所は七月三十一日限りで廃止になりました。

八月からは、それぞれ公民館分館として、職員を配置しております。

なお、行政事務の一切は、本庁で取扱いますから、ご協力をお願いいたします。また、税金、保育料などの納入は、従来どおり、各農協で取扱うことになっており、その他の住民サービスについても今後いろいろ考えていく予定でおります。

本館は公会堂へ移転

公民館の本館は日宝町の公会堂の中に移転しました。

今後の公民館活動の集会は公会堂で行なわれますが、無料です。公会堂としても有料で使用できます。

許可願はどちらの場合でも公民館で処理することになりました。

ご不便はかけないつもりですから有効に利用願います。

人事異動

八月一日付で次のとおり人事異動を行ないました。

△総務企画課▽課長阿部清治（教委庶務課長）補佐藤田十一郎（財政管財係長）統計係長山田正雄（税務）佐藤数子（国体）△徴収課▽課長平田義清（保健衛生課長）斎藤信雄（金津）（課長兼務解任三間勘次）△市民課▽課長沢田芳雄（総務企画課長）△保健衛生課▽課長植村章平（国体次長）成沢成一（新関）△建設課▽課長塩谷發人（同課長代理）補佐小柳忠（税務課長補佐）土木係長平沢秀策（同課）△税務課▽補佐加藤豊太郎（建設業務係長）諸税係長鈴木啓雄（同課）田村俊蔵（福祉）△商工観光課▽補佐徳永清綱（総務企画課長補佐）（観光係長兼務解任吉川潤二）△財政課▽管財係長額田遊夫（総務統計係長）▽農林課▽大地フミ（財政）△社会福祉事務所▽堀川岩一（徴収課）小林孝（国体）△会計課▽新田フサ（国体）△農業委員会▽加藤昌（国体）△監査事務局▽阿部忠夫（国体）△教育委員会▽庶務課長荒木末次（市民課長）竹内和春（国体）藤井義正（監査）△消防▽消防長福住由次（助役兼務）消防司令猪野一雄（司令補）司令補長沢末男（士長）士長入倉勘十郎（消防士）（消防長解任堀川留治）（消防士長解任樋山五郎次）